た か さ 史 話 49

近世 都 市 高 砂 の 繁栄 2 高 砂 の 漁業

た。 漁業も盛んに行われていまし 港 湾都 安永二年 (一七七三) 市とし ての高砂では ത

八艘·船持一一五人、

次氏所蔵文書) には

猟船

町方明細帳写」(船津重

狩引船

(曳網船か) 二五艘

されて 船持二〇人があったことが記 います。 また町名にも

猟師町 (漁師町 釣舟町、

網町 世帯二〇二人、 があって、 それぞれ五一 _ 世帯四

住んでいました。 漁船の数か

三五人、六八世帯二九六

人が

らいえばその大部分が漁業で

であったもの

が、

安永二年の

そのほかにも魚町九 世

て

お

ij

営業税的

な性格に変

生活していたと言えるでし

帯三四一 の全てでは無いでしょうが魚 人がありました。 そ

問屋や 生魚や塩干魚を加工・

たと 思わ れます。 商人が多く住んで

販売する

LJ

元に在住している年には高砂 姫 路 藩主が参 勤交替 で

> れ 高砂に対し りました。 暮として献上する習わし の 町中として塩鯛一 ていたことへ て漁業権が認めら それは姫路藩 の謝礼の ○枚を歳 から 意味 があ

があり ました。 それとは 別に

〇枚、 毎年、 塩鰆一○○本、 高砂漁師から塩鯛 干鱧三 四二

○○本を献上する替わ IJ

五〇

匁 それぞれ銀三三六匁、 一〇匁五分が上納されて

たちが漁業権を認められるこ しし ました。 それは本来は漁師

とに対する役負担的な献上物

つ

段階ではすでに代銀納となっ

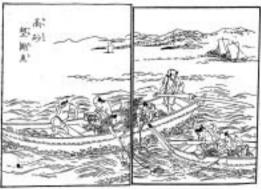
わっ また網を用いる漁業に対して てい たと考えられます。

枚、 こち網札二七枚、 営業鑑札が発行されてお 狩網札 枚、 立網札一一 地引き網札

三枚、 それぞれ運上銀五四匁、 沖鴨取札四枚につ 三匁 7

> 魚問屋 三分、 に川 上銀が納められてい が上納されています。 漁師から一〇〇匁五分 二分、 から二貫一五〇匁の 二四匁、 ます。 二〇匁 その 禈 他

て城下 摂津 外 す 食料資源を確保する政策を採 漁師を保護するとともに、 飾 (市史編さん専門委員長今井修平) に磨を始めとする領 播磨 て \wedge ので姫路藩としては ١١ の か たと言えるでし 町 漁獲物の販売を制限し らも漁師が 灘 の 姫路 海域 を中 には 心 λ に領 内漁村の り込みま 備 高砂 前 内の 領 ゃ



『日本山海名産図会』より「高砂名産飯蛸」